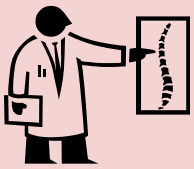
伊藤外科ニュース



98 号

2012.09 発行

今年も暑い夏でしたが、皆さん体調はいかがですか？8 月の外来は、若い方の夏風邪が目立ちました。熱中症の方もいらっしゃいましたが、予防対策に慣れたためか昨年ほどではなかった印象です。

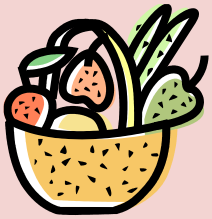
一方、クーラー病の方も時々来院されましたがやはり身体を冷やし過ぎることも問題ですね。東京では、昔のように夜風だけで寝ることができる環境は、望めないので室温の管理に気を付けて下さい。

痺れについて

今月は痺れに関して少々。

患者さんは手足の痺れがあると脳梗塞などの重症な病気を心配されて診察にみえられます。しかし、痺れの原因の多くは、脳のトラブルではなく末梢神経性のものであり、かつ神経が締め付けられて生じる絞扼性神経障害です。

皆さんは、睡眠中に体の下に手を入れて痺れで目を覚ました事があると思いますが、長く神経が締め付けられた結果生じる痺れを絞扼性神経障害と呼びます。この痺れは神経が締め付けられている部位によって病名が様々です。外来で多く診かける薬指と小指の痺れの原因は、肘の関節内で尺骨神経が締め付けられて生じる事が多いようです（肘部管症候群）。
さらに働き者の女性に多い手根管症候群は、正中神経の圧迫症状で手のひらや親指、人差し指に痺れを生じます。



私はクーラーが必要なこの時期に、首の痛みと右手の痺れは出現しますが、これも頸椎椎間板ヘルニアによる絞扼性末梢神経障害です。

治療の第一は、どの部位で神経が圧迫されているのかを診断し、患部の安静、内服治療、理学療法などで圧迫絞扼を解除することです。多くの場合は、手術を行う事無く徐々に改善します。以上は整形外科的な痺れの話でした。

一方で、ときどき両手足が手袋や靴下の範囲で痺れて来院する方がいます。この症状は内科的な痺れであり、糖尿病、アルコールの飲み過ぎ、甲状腺の病気などを考えて検査治療いたします。

ところで、最近国立がん研究センターから、食道や胃、大腸がんの生活習慣上の予防について以下のような報告がありました。

食道がんは喫煙と飲酒、熱い飲食物が発がんのリスクと考えられる。胃はピロリ菌の感染、喫煙、塩分過剰を、大腸は飲酒、肥満、喫煙、加工肉の摂取過剰などを注意する事が発がん予防する上で留意すべきとの事でした。

また、適度な果実や非でんぷん野菜の摂取や運動はがんの予防になるようです。ガン検診による早期診断は勿論重要ですが、ガン発症予防のための生活習慣にも気を付けてください。

9 月の中旬からは気温も下がり気持ちの良い日が来ることを期待しています。皆様も健康でお過ごしください。

院長

伊藤外科 HP　http://www11.ocn.ne.jp/~itoh-hp

（バックナンバーは HP にて公開中です）

三弓先生の本棚 25

今回の一冊

「孔子」 3冊＋1本

今年の夏はすっかり「孔子」三昧だった。紀元前500〜400年代、中国・春秋時代の『論語』の始祖である。といっても別に、『論語』を勉強したいわけではなく、孔子、その人がいたあたりの時代の中国に興味を持たざるを得ない事情があった。

ここ数年、日本の古代に関わる調べ物をしているが、いよいよ大陸文化が無視できないところまできてしまった。といっても、中国のこと、全然知らないんだよなぁ。そんなとき、たまたま出合ったのが、2011年に中国で制作・放映された連続歴史ドラマ『如の人〜孔子伝』である。35話完結だが、現在DVDで24話を見終わったところ（孔子が弟子たちと諸国巡遊の旅に出ている最中です）。これが実に面白い!!　歴史ドラマというのは、えてして制作側の意図（時には政治的意図）が多分に含まれると思うが、中国がいまなぜ、これだけ大規模な孔子の連続ドラマを制作したのだろうか……、などというややこしいことはちょっと隅においておくとして、私の最大の興味は、「時代考証はどのくらいしっかりされているのか？」ということ。

諸国が割拠するこの時代、孔子が生まれ、暮らした魯国は弱小国だったようだが、村の入り口には、日本の神社の鳥居とまったく同じ門が!!　孔子は琴の名人といわれているが、場面場面で孔子が奏でる琴の形は、日本の縄文時代遺跡から出土されたコトの残欠とそっくり！　祭祀のシーンで神官（という名称じゃないと思うが）が、どうやら祓え具として使っているものは、日本の神社の大麻（神職さんが祓え清めのときにバサバサ振る祭具）の原型といわれている麻紐を割いたものを束ねた形!!　すごく気になります。

ドラマを見ていたら、やはり「孔子」その人も気になって、３冊、立て続けに読んでいる。１冊目は『マンガ孔子の思想』（講談社α文庫）。これはブッダやキリストなどを扱ったマンガシリーズのうちの１冊で、孔子に関しては中国古典をマンガ化してベストセラーになり、世界各国で翻訳されている蔡志忠氏（台湾生まれ）の漫画がユーモラスでいい。孔子の生涯から、弟子たちの話、主立った論語の解説がコンパクトにまとめられている。

２冊目は図書館で借りた『孔子〜漂泊の哲人』（竹川弘太郎著・海竜社）。こちらは孔子の生涯を完全に小説仕立てにしたもの。３冊目は井上靖・著の『孔子』（新潮文庫）である。孔子亡き後、残された架空の弟子が孔子の生きた姿を語る形をとった小説だ。３冊と１本、それぞれに、製作者・著者が想う「孔子」が描かれている。

最後に、ドラマの中から印象深いシーンをひとつ。まだ若き孔子が、短い放浪の旅に出て、師と仰ぐ人たちに出会っていく。「礼」にのっとった立派なお辞儀をした孔子に、老人がこう感嘆を漏らす。「いまの魯国にまだ、このように礼を重んじる若者がいたとは……」。調べてみたら、「礼」というのは、周代の始め（紀元前1050年頃）に形作られたらしいですね。紀元前の大昔にそれほどの文化があったことも、さらに、紀元前のうちにすでにそれがないがしろにされていたことにも、いろいろ感慨深いシーンでありました。

（一弓）